

組合員のみなさまへ

生活協同組合パルシステム千葉
なのはな生活協同組合
生活クラブ生活協同組合
ちばこどもおうえんだん

「2017年度こども・若者未来基金」 寄付募集活動の報告

NPO 法人ちばこどもおうえんだんの「こども・若者未来基金」は、「社会的養護の下に暮らす（暮らし）子どもたちなどの多様な自立を、伴走者と共に支援することで、自分の人生を切り開く手助けをすること」を目的として設立されました。

この基金の趣旨に賛同した、県内3つの生協（生活協同組合パルシステム千葉・なのはな生活協同組合・生活クラブ生活協同組合）が協力し、統一活動を行いました。組合員の皆さんからも、趣旨に賛同いただき、多くの寄付を集めることができました。

寄付額（2016年度寄付分含む）

9,493,000 円

ご協力いただいた
皆さま、ありがとう
ございます！

3生協の組合員による寄付とちばこどもおうえんだんへの寄付の総額です。

子どもたちに、こんな
応援ができました！

アルバイトをしてお金を
貯めていますが、貯金で
は学費が賄えません。

就職して1人暮
らしを始めます
が、あまり貯金
がなくアパート
の敷金や家財を
買うお金が足り
ません。

就職します！職場と住むと
ころの距離が離れているの
で、自動車の免許を取りた
いです。



自分と同じような境遇で育
った子どもたちのために役
に立つ仕事がしたいので、
進学したいです。そのため
の進学資金が足りません。

2017年度は、10名12件の子どもたちを
おうえんすることができました。

内容	件	単位：円
まなびサポート	3	900,000
くらしサポート	2	2,160,000
資格サポート	3	900,000
くらしスタート	4	1,158,440
合計	12	5,118,440

こども・若者未来基金 2017

助成報告会のご案内

◆日時 2018年5月26日(土)
14:30~16:30(開場 14:00)

◆場所 千葉市美術館 11階 講堂

◆内容

2017年度基金の報告

第1部

基調講演「社会的養護の子どもたちの自立に向けて」

講師：藤井 康弘さん（元厚労省障害保健福祉部長・NPO法人東京養育家庭の会理事・里親）

第2部

子どもたちの声

◆参加費：無料 ◆託児はありませんが、お子様も一緒に！

◆締め切り：5月21日（月）

当日参加可能ですが、資料の準備等の関係上、できるだけ事前にお申し込み下さい。



【お申し込み・お問い合わせ先】

特定非営利活動法人ちばこどもおうえんだん 事務局（土日祝を除く10~16時）

◆申し込み方法：メール、電話、FAX（お名前・ご住所・電話番号・メールアドレス・所属をお知らせ下さい）、

または二次元バーコードにてお申し込みください。

TEL/FAX：043-205-4046 mail：chiba.kodomo_ohendan@fuga.ocn.ne.jp



社会的養護のこどものくらしと自立を考えるシンポジウム報告



10月10日（火）
10:00~11:30
船橋勤労市民センター
参加者 85名

基調講演は放送大学副学長の宮本みち子先生。先生は当こども・若者未来基金運営委員会座長です。

地域のなかでの助け合いが、時代とともになくなった現代。産業の高度化もあいまって、若者が生計を立てて家庭もつまでに至るには支援策が必要との提言でした。後ろ盾となる親がいない若者・こどもへの支援制度は重要。当基金では自立に必要な資金提供と各人に「伴走者」をつけること。伴走者は親がわりとなり、若者ひとりひとりに寄り添う存在。宮本先生はこの事業を千葉から全国に広めたいと訴えてくださいました。



10月27日（金）
10:00~11:30
アミュゼ柏
参加者 73人

基調講演は自立援助ホーム南柏ホーム長の佐藤陽一さん。ご自身の経歴や自立援助ホームでの活動の話から、困難を抱える子どもたちに向きあうことの大切さを語っていただきました。「自立援助ホーム」とは、事情により家庭から出て、働かざるを得なくなった15~20歳(原則)までの子どもたちのための施設です。安心して暮らせる場を提供し、在所中に経済的精神的な自立ができるよう支援することが目的です。ホームの子ども達の多くは仕事が続かず、つまづくことも多いといいます。

ホームの子どもたちとの交流のエピソードから、「見守る」ことの大切さ、「支える」ことの意味を深く考えさせられました。